個人投資家さま向け会社説明会

三和ホールディングスの概要と取り組み

2025年12月2日

三和ホールディングス株式会社

（東証プライム･証券コード：5929）

代表取締役社長

髙山 靖司

三和ホールディングス株式会社

本日お話しする内容

01 会社概要
02 三和グループの歴史
03 三和グループの売上高構成
04 日本における主要商品
05 日本における強み
06 米州における強みと主要製品
07 欧州における強みと主要製品
08 アジア事業の成長力強化
09 業績推移
10 長期ビジョンと中期経営計画
11 社会に貢献する商品・サービス
12 ESGマテリアリティとKPI
13 株価推移
14 株主還元
15 株主優待情報
16 外部からの評価
17 コーポレートサイト

「予想」に関する注意
当資料に記載されている内容は、様々な前提に基づいたものであり、記載された業績予想、各施策の実現を確約したり、保証するものではありません

01 会社概要

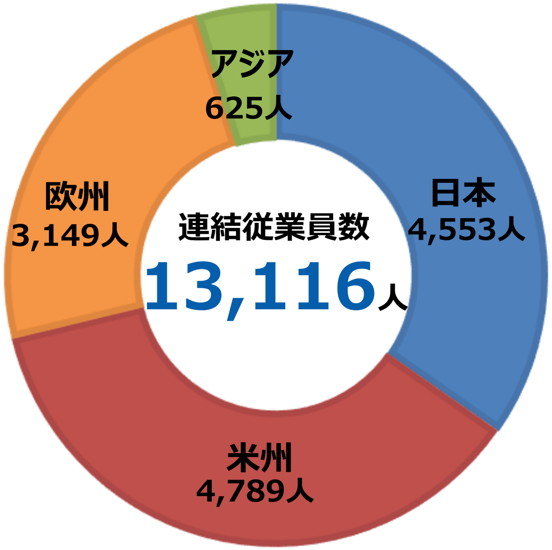
三和グループの使命

安全、安心、快適を提供することにより社会に貢献します

三和グループの経営理念

一、お客様すべてが満足する商品、サービスを提供します
一、世界の各地域で評価されるグローバルな企業グループとなります
一、個人の想像力を結集して、チームワークにより、企業価値を高めます

従業員の地域別構成比



会社概要

設立 1956年	連結子会社 71社	
連結売上高 6,624億円	営業利益 805億円	営業利益率 12.2%
展開地域 28の国と地域	生産拠点 61カ所	（2025年3月期）

02 三和グループの歴史

1956 三和シヤッター製作所として兵庫県尼崎市に設立

1963 本社を東京へ移転

1969 三和ドアー工業㈱を設立し、ドア事業に進出

1970 東京・大阪両証券取引所市場第1部に上場

1986 香港・シンガポールに現地法人を設置、初の海外進出

1996 米国オーバーヘッドドア社を買収

2003 欧州ノボフェルムグループを買収

2007 持株会社体制へ移行

2016 監査等委員会設置会社へ移行

2019 鈴木シャッターを買収

1956

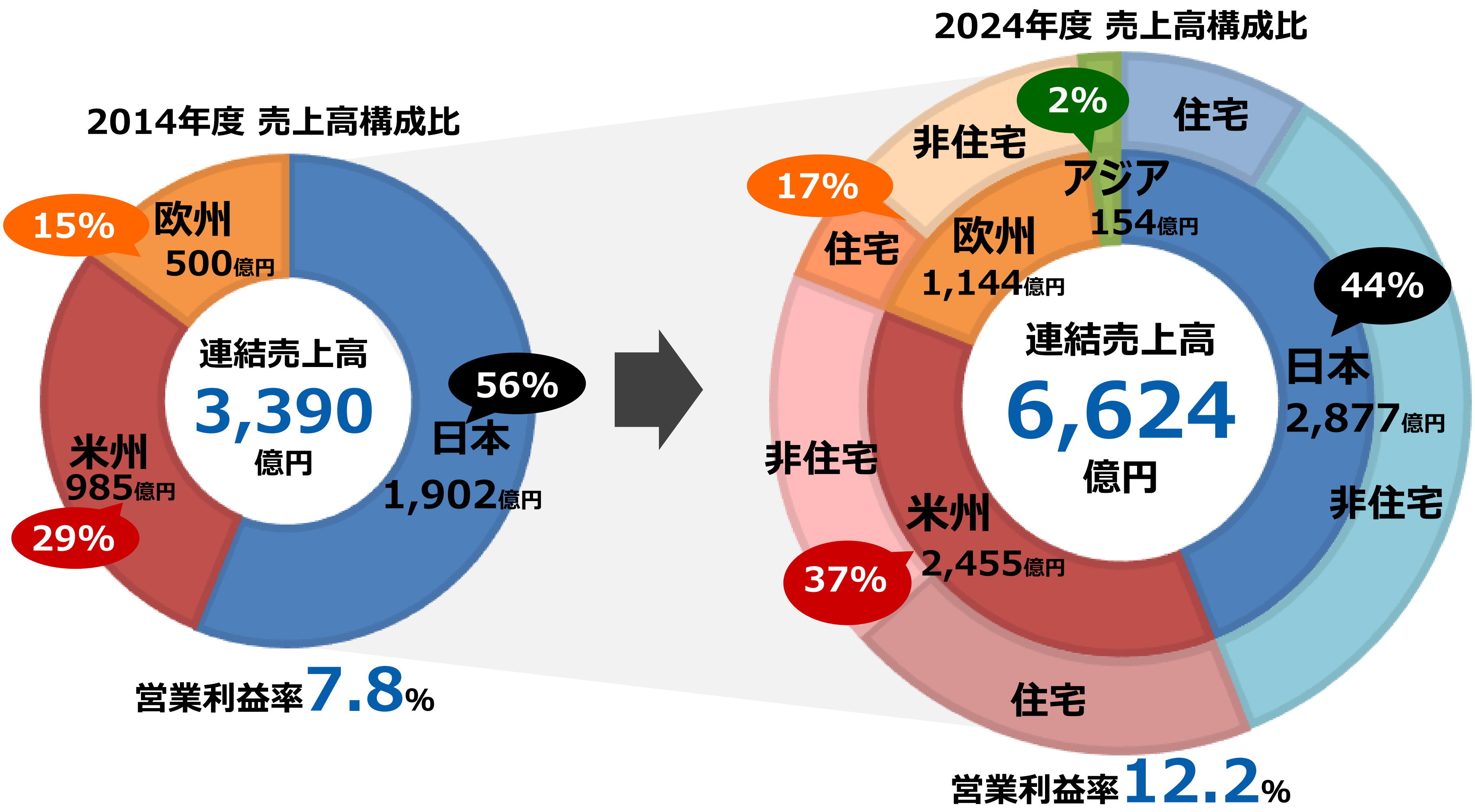
操業時の太田ドア工業

オーバーヘッドドア社 買収

ノボフェルムグループ 買収

03 三和グループの売上高構成

当社グループの強みである「多品種化」「グローバル化」「サービス」を継続的に強化し、グローバルトップブランドへと拡大を続けています



三和ホールディングス株式会社

04 日本における主要商品

日本

：マーケットポジション

シャッター製品

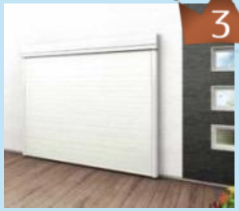
重量シャッター

オーバースライダー

軽量シャッター

高速シートシャッター
「クイックセーバー」シリーズ

断熱スライダー



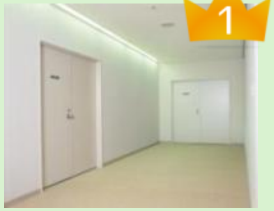
窓シャッター
「マドモア」シリーズ

ウォーターガード
防水シャッター

高速高頻度グリルシャッター
「レジデンスグリル」

ガレージドア

ドア製品



スチールドア

マンションドア

医療施設向けドア
「スムード」シリーズ

その他製品

間仕切

ステンレスフロント

自動ドアエンジン

アルミフロント

カーテンウォール

メールボックス
宅配ボックス

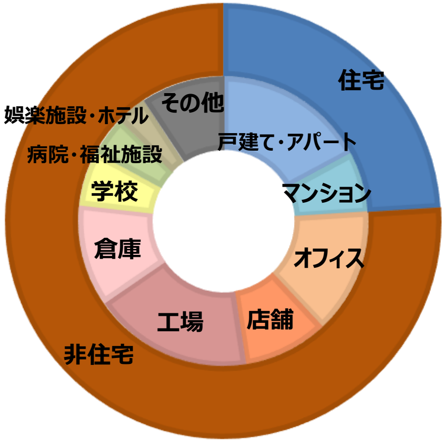
05 日本における強み

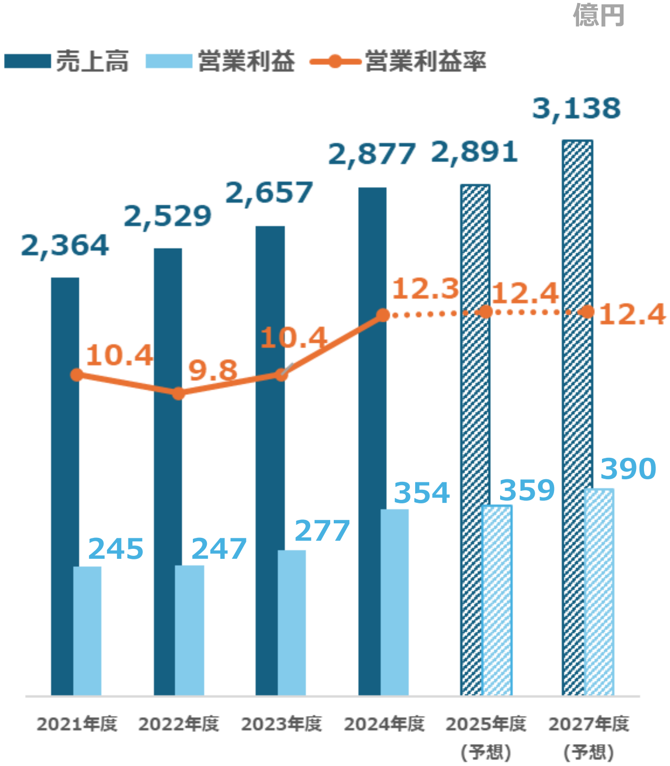
日本

特徴

- ■三和シヤッターを中心とした全国に拡がる販売・製造拠点網
- ■施工・アフターサービスまで一気通貫のビジネスネットワーク
- ■3,900名超の施工技術者を全国配置した強固な施工体制
- ■シャッター、ドアだけではない“多品種ラインアップ”

2024年度製品用途別売上構成
（三和シヤッター）





市場動向

主力の非住宅向けではこの先も需要は堅調に推移する見込み

・オフィス、商業施設
大都市圏において、大型再開発プロジェクトが進行中

・工場
国内回帰等により建設が堅調に推移

・倉庫、物流センター
大型物流センターの建設は高水準を維持

主な取り組み

・販売価格
物流費・工事費・人件費の増加分や鋼材価格上昇分の売価転嫁により、採算性を確保

・高付加価値商品の拡充
防災・減災・環境配慮商品やIoT技術を駆使したスマート化製品ラインアップの拡充

・メンテ・サービス事業
2016年より、防火設備検査が法制化され、法定検査が伸長
収益性が高い修理・メンテナンス売上は国内事業全体の約20%近くを占める

06 米州における強みと主要製品

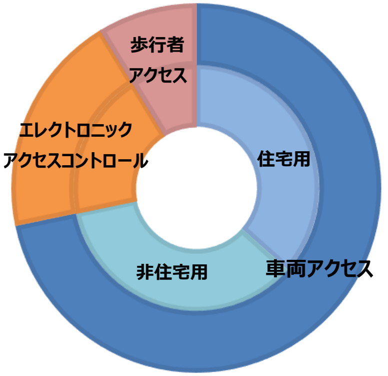
米州　－オーバーヘッドドア社－

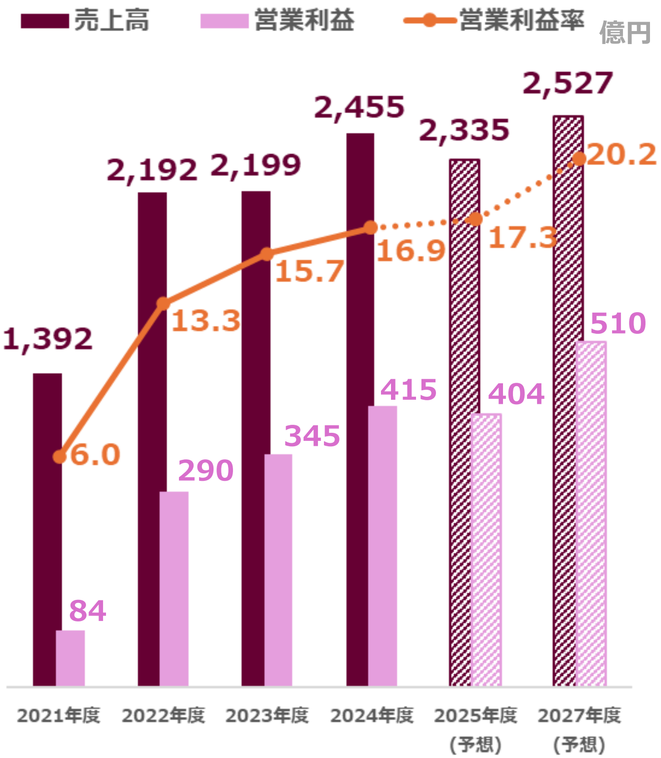
The Genuine. The Original.
OVERHEAD DOOR

特徴

- ■1921年創業の業界のパイオニア
- ■商品ラインアップが豊富
- ■強固な販売ネットワーク
  （約450ヵ所の代理店／全米に広がる数千の販売店／ネット販売）
- ■高いシェアを支える強靭な製造ネットワーク

2024年度製品用途別売上構成





市場動向

住宅･非住宅市場とも回復は2026年から

･住宅向け
金利高止まりと関税影響により市場が減速しているが、今後金利引き下げが後押しし、需要回復が見込める。人口増により、長期的な需要増を見込む

･非住宅向け
倉庫や半導体･自動車等の工場の建設増加が今後期待できる

主な取り組み

･市場シェア
新商品投入やチャネル強化によりシェア向上に取り組む

･販売価格
鋼材価格の上昇分を販売価格に転嫁し、高水準で販売価格を維持、高い収益性を確保

･コスト削減
製造･配送等の生産性改善や生産拠点最適化の推進

産業用シャッター

ガレージドア

車両アクセス

開閉機

エレクトロニックアクセスコントロール

自動ドア

歩行者アクセス

07 欧州における強みと主要製品

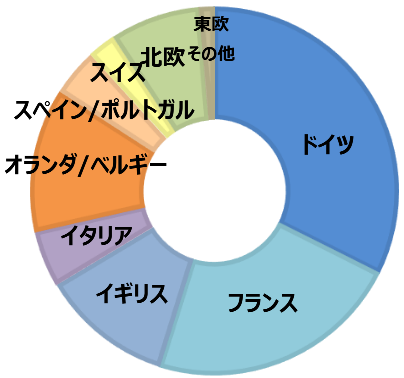
欧州 －ノボフェルムグループ－

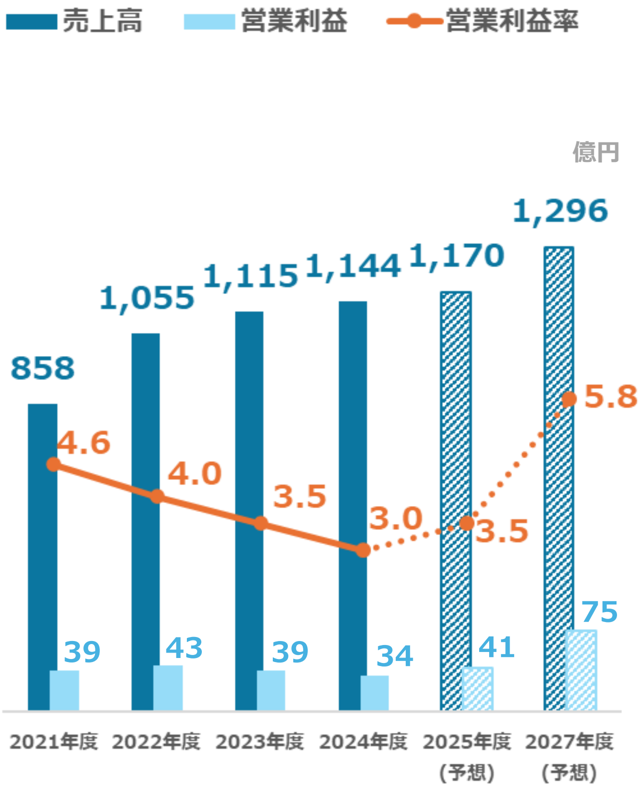
novoferm

特徴

- ■1955年創業の業界２位のシェア
- ■M&Aによりコア製品のシェアアップ
- ■サービス事業の強化
- ■顧客視点でデジタル化されたプロセス

2024年度国別売上構成





市場動向

・住宅向け
ドイツ・フランスなどは厳しい状況にあるが、26年以降の回復を予想
・非住宅向け
住宅同様建設環境は厳しいが、工場・倉庫など産業用の落ち込みは比較的軽微であり、25年に底打ちを予想

主な取り組み

・ M&A戦略
シェアの低い地域において、M&Aによりシェア拡大に努める
・ サービス事業
産業ドアを中心にサービス事業を強化し、収益確保に努める

産業用ドア

ガレージドア

スチールドア

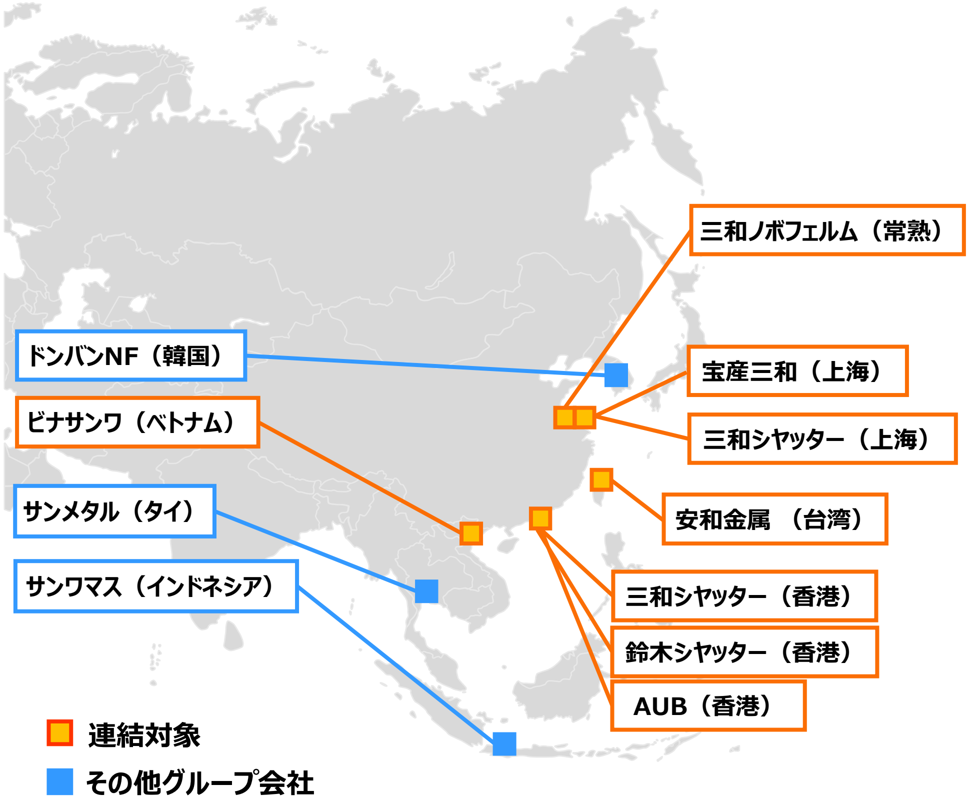
ドックレベラー

08 アジア事業の成長力強化

アジア

戦略 グループ各社の一体運営強化 および連結対象事業の拡大

	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	2027年度 目標
売上高	154億円	156億円	196億円
営業利益	3.7億円	5.1億円	12.5億円



特徴

- ■1986年に業界に先駆けて アジア（香港･シンガポール）へ進出
- ■日本の技術を活かした高品質な 製品ラインアップ
- ■グループ各社の販路･技術力を活用
- ■2022年にはアジアで初となるM&Aとして香港AUB社を買収、事業強化と領域拡大を進める

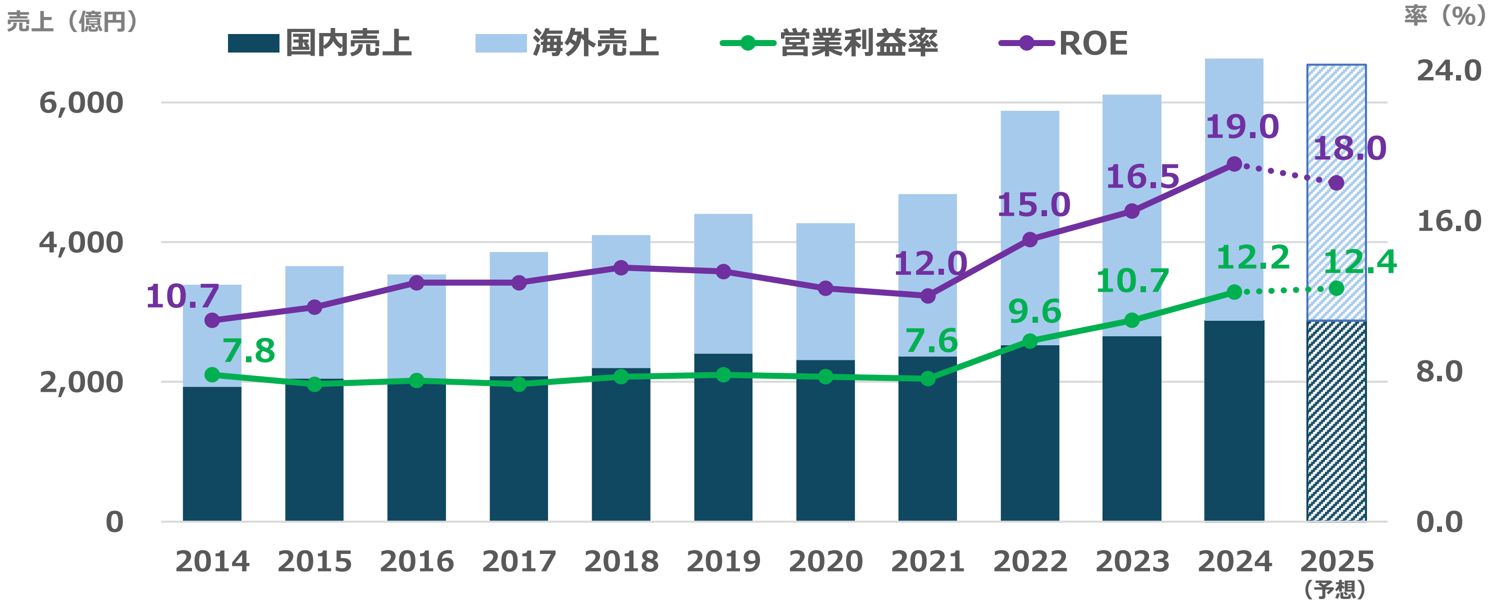
市場動向

- ･工場向け、オフィス向けなど非住宅の割合が大きい
- ･中国市場は低迷しているが、香港･台湾が堅調に推移
- ･ベトナム、インドネシアなどアセアン諸国は将来的に経済発展の可能性の高い地域

主な取り組み

- ･ローカル化の推進
- ･防火･遮熱市場への攻略

09 業績推移



- 売上高は、約**3,200**億円増加、特に海外売上高は**2.6**倍に
- 営業利益率は、**4.4**ポイント上昇

左記**数値**は全て2014年度と2024年度の対比

2025年度　第2四半期 決算

2025年度 第2四半期実績
売上・各利益とも期初公表を上回った
利益は、国内事業が公表値を大幅に上回り、
海外事業を補って**過去最高益**となった

2025年度通期見通し
期初公表値を据え置く
米州・欧州事業は、市場の回復遅れなどにより
厳しい状況が続く見通し
好調な国内事業及び為替影響などにより期初公表値の
達成を目指す

	2024年度 通期実績	2025年度 2Q累計実績	2025年度 通期予想	中計2027 目標
売上高	6,624億円	3,092億円	6,540億円	7,500億円
営業利益	805.2億円	337.0億円	810.0億円	1,000億円*
営業利益率	12.2%	10.9%	12.4%	13.3%*
ROIC（注1）	18.5%	-	17.5%	18.5%
ROE（注2）	19.0%	-	18.0%	19.0%

（注1）ROIC＝税引後営業利益(NOPAT)／投下資本 ×100
※ROICで用いる投下資本は、「株主資本＋有利子負債」で算定
（注2）株主資本コストは８％を目処

*のれん償却前

為替レート	2024	2025	2027
１ドル	152.24	140.00	140.00
１ユーロ	164.36	160.00	160.00

10 長期ビジョンと中期経営計画

グローバルビジョン2030

To be a Global Leader
of Smart Entrance Solutions

～高機能開口部のグローバルリーダーへ～

気候変動やデジタル化などで変化する社会のニーズに応える
高機能な開口部ソリューションをグローバルに提供し、
サステナビリティ経営と人材力強化により
すべてのステークホルダーから評価される企業グループとなる

FY2022 - FY2024 中期経営計画2024

気候変動やデジタル化で変化する
社会のニーズに応える高機能開口部
ソリューションのグローバルリーダーへ
向けた基盤を確立する

営業利益
805億円

防災・気候変動(緩和・適応)
貢献商品の売上額
2,133億円

営業利益率
12.2%

FY2025 - FY2027 中期経営計画2027

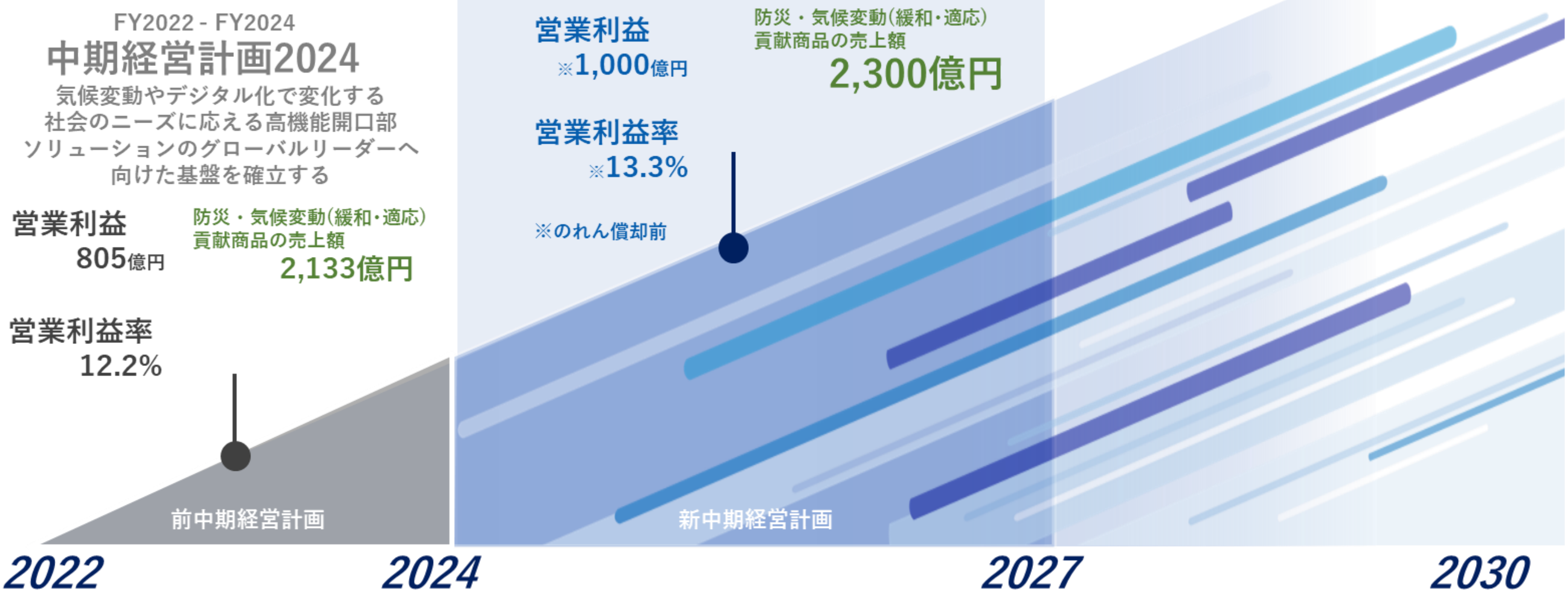
気候変動やデジタル化で変化する社会のニーズに
応える高機能開口部ソリューションのグローバル
リーダーへ向けた基盤を強化・拡充する

営業利益
※1,000億円

防災・気候変動(緩和・適応)
貢献商品の売上額
2,300億円

営業利益率
※13.3%

※のれん償却前



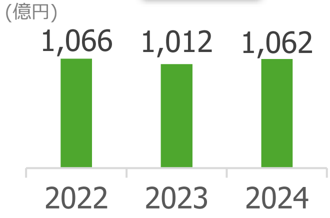
11 社会に貢献する商品・サービス

気候変動やデジタル化などで変化する社会のニーズに応える気候変動対応や防災に貢献する商品の品揃え強化と商品・サービスのスマート化・IoT化を推進します。

気候変動

緩和

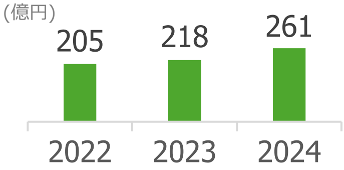
空調効率を向上させる高速シートシャッターや断熱効果のあるオーバースライダーなど、地球温暖化の進行を食い止める"緩和"に貢献する商品



2027年度目標
1,120 億円

適応

気候変動の進行に備えた防水・耐風商品など、気候変動による被害の回避・低減に備える"適応"に貢献する商品

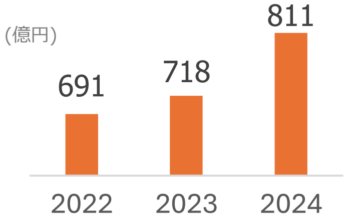


2027年度目標
280 億円

防災

防災に貢献する商品

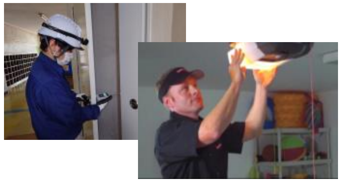
火災発生時の延焼防止に貢献する防火シャッター、防火ドア、耐火間仕切や、地震発生時の安全な避難に貢献する耐震商品

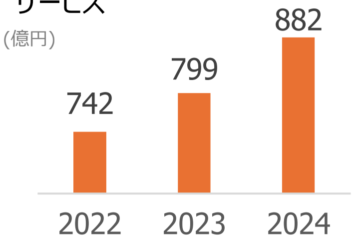


2027年度目標
900 億円

防災機能を支えるメンテナンス・サービス

社会インフラとしての防災機能の維持と、住み続けられるまちの実現に貢献するメンテナンス、点検、修理サービス





2027年度目標
1,020 億円

スマート化・IoT化

便利で快適な暮らしを実現するスマート化・IoT化商品

RemoSma
スマートフォン操作システム
(三和シヤッター)

Aladdin Connect
スマートフォン操作システム（ODC）

Homematic IP
Smart Home System
ガレージドア用操作システム（NF）

2024年度
130億円

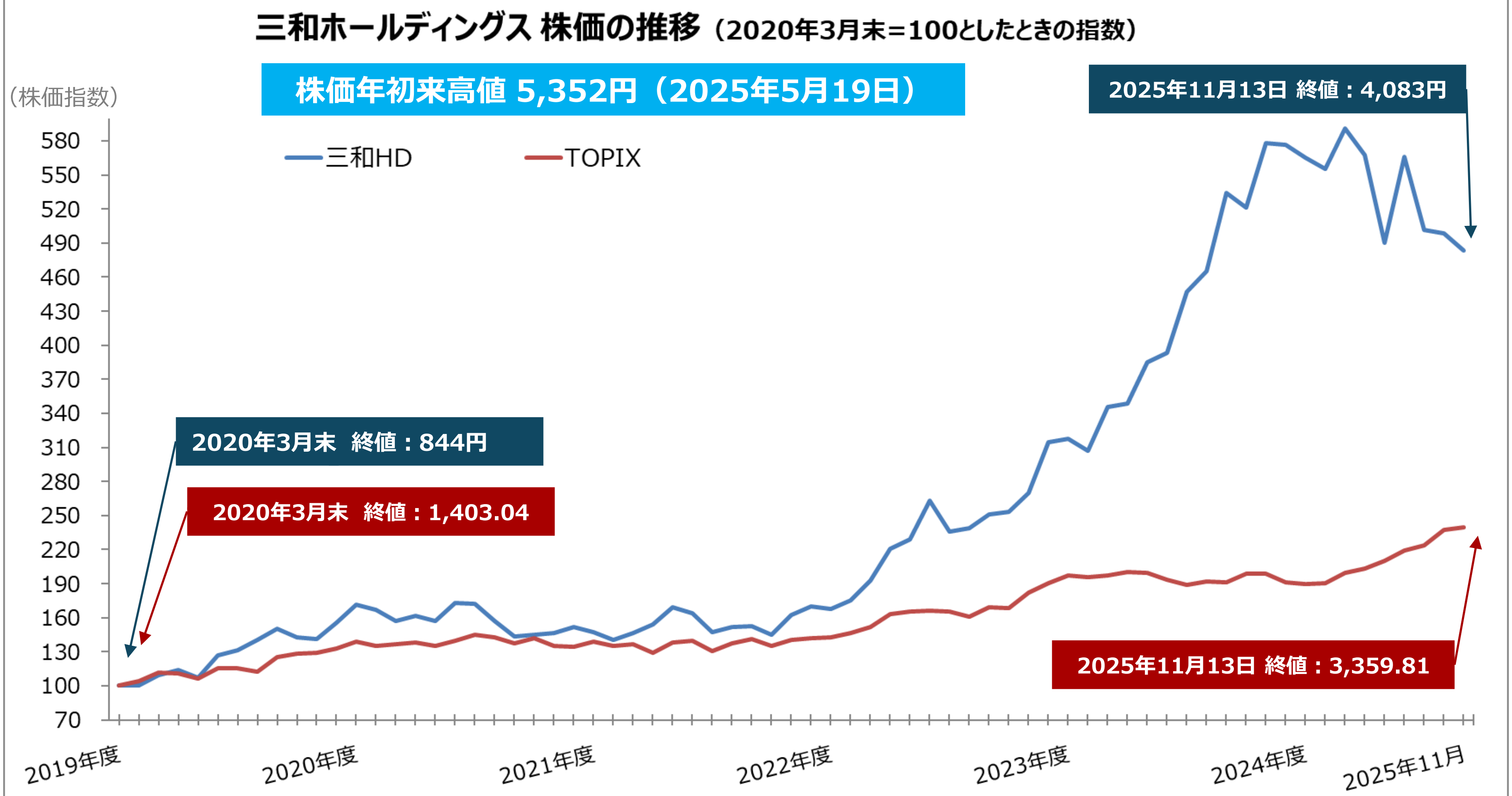
2027年度目標
160億円

12 ESGマテリアリティとKPI

	ESGマテリアリティ	取り組みテーマ	KPI	対象範囲	貢献するSDGs
ものづくり	商品、サービスを通じた気候変動・防災への貢献	気候変動の緩和に貢献する商品売上高	1,120億円（2027年度）	連結	9, 11, 13
		気候変動の適応に貢献する商品売上高	280億円　（2027年度）		
		防災に貢献する商品売上高	900億円　（2027年度）		
		メンテ・サービス事業売上高	1,020億円（2027年度）		
	品質の確保・向上	各社の品質方針に沿った品質目標の達成	――――		
環境	脱炭素社会へ向けた取り組み	CO2排出量(Scope1+2)の削減	FY2019比 20%削減（2027年度） FY2019比 30%削減（2030年度）	三和シヤッター工業	12, 13, 14
	水資源の保全	水使用量原単位(工場・事務所)の削減	FY2020比 30%削減（2030年度）		
	廃棄物の削減	廃棄物排出量原単位(工場・事務所)の削減	FY2020比 60%削減（2030年度）		
人	人材育成	1人あたり年間研修時間	38時間（2027年度）	三和シヤッター工業	5, 8, 10
		デジタル教育(基礎編)受講率	90%　（2027年度）		
		デジタル教育(応用編)受講人数	70人　（2027年度）		
	ダイバーシティの推進	女性従業員比率	25%以上（2030年度）	連結	
			15%以上（2030年度）	三和シヤッター工業	
		新卒女性採用比率	30%以上（毎年）	三和シヤッター工業	
		女性管理職比率	20%以上（2030年度）	連結	
		男性育児休業取得率	70%以上（2027年度） 100%　（2030年度）	三和シヤッター工業	
	安全と健康	肥満率（BMI25以上）	30%　（2030年度）	国内グループ	
		喫煙率	25%　（2030年度）		
		ハイリスク者受診率	100%（2030年度）	三和シヤッター工業	
		有給休暇取得率	70%　（2027年度）		
グループの経営基盤	コーポレート・ガバナンス	取締役会の多様性確保	ボードダイバーシティへの対応（2027年度）	三和ホールディングス	10, 16, 17
		ステークホルダーダイアログ実施回数	350回　（2027年度）		
	人権の尊重	人権リスクの特定、除去、防止	人権デューデリジェンスの継続実施と改善（2027年度）	国内・アジア	
	コンプライアンス	コンプライアンス研修受講者数	8,000人（2027年度）	国内グループ	
		コンプライアンス研修受講率	100%　（2027年度）		

13 株価推移

（2025年11月13日 現在）

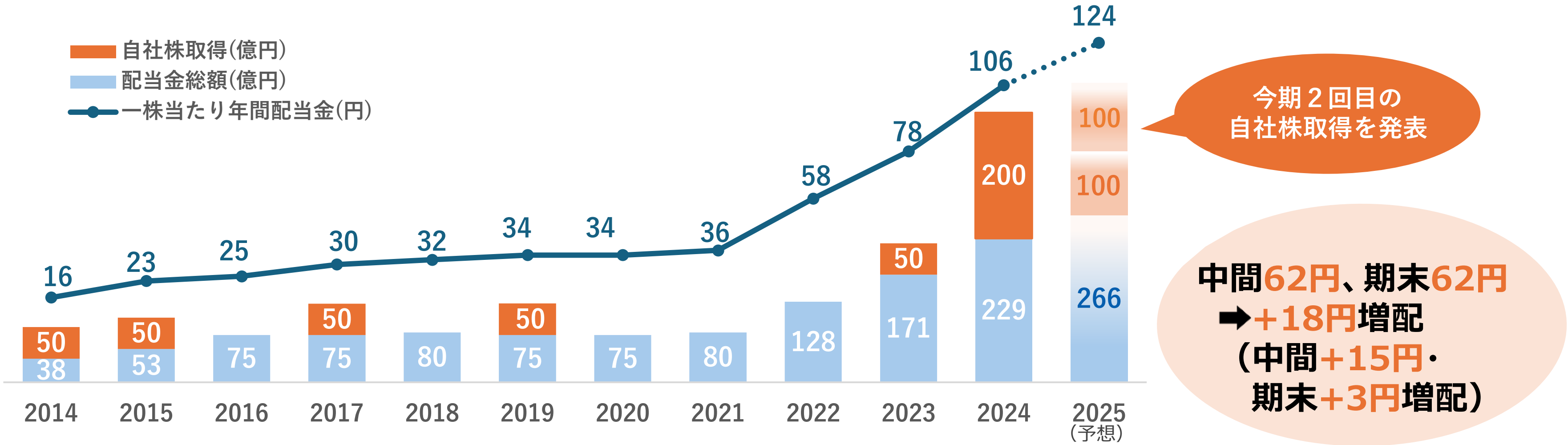


PER	8.7	15.1	12.0	9.5	13.7	15.1※

※11/13終値時点

株主還元

■配当金・自社株取得の推移



配当性向（%）	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025（予想）
	29.6	36.5	33.5	37.1	34.4	35.0	35.3	34.8	38.7	39.8	40.1	45.8

■配当方針　DOE（自己資本配当率）8%目安に
➡ROEを18%以上に維持し、配当性向を45%とした場合と同等の水準

■自社株取得　2025年度上期に100億円の自社株取得を完了
10月31日に新たに100億円を上限とする自社株取得を決定

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度（予想）
配当性向	%	34.8	38.7	39.8	40.1	45.8
１株当たりの当期純利益	円	103.4	149.7	196.0	264.6	270.7
ＰＥＲ（株価収益率）	倍	12.0	9.5	13.7	18.0	-
１株当たりの純資産	円	912.7	1,088.9	1295.5	1499.1	-
ＰＢＲ（株価純資産倍率）	倍	1.4	1.3	2.1	3.2	-

【11/13 終値時点】
PER 15.10倍
PBR 2.63倍

15 株主優待情報

３月末現在の株主様を対象に、当社オリジナルのマリリン･モンローＱＵＯカードをお渡ししています

100株以上保有の株主様	オリジナルＱＵＯカード　500円分
1,000株以上保有の株主様	オリジナルＱＵＯカード 2,000円分 ※保有期間が２年以上の株主様

三和グループでは、1979年より毎年マリリン･モンローを起用し、
ＱＵＯカードやカレンダーなどを制作しています
マリリン･モンローが他界し、６０年以上となりますが、
20世紀を代表する女優の一人として人気は高く、ご好評いただいております

16 外部からの評価

三和グループのサステナビリティへの取り組みや情報開示の姿勢が社外から評価され、
国内外のESGインデックスの組み入れや様々な賞を受けるなどの評価を受けています

ESGインデックスへの選定

MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数 (2025 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数 / MSCI ESG RATINGS AA)	FTSE4Good Index Series (5年連続)
FTSE Blossom Japan Index (5年連続)	FTSE Blossom Japan Sector Relative Index (4年連続)
SOMPOサステナビリティ・インデックス (2025 Sompo Sustainability Index)	S&P／JPXカーボン・エフィシエント指数

主な受賞・評価

CDP2023気候変動 「B」評価 (CDP Discloser 2024)	2024年度日経サステナブル総合調査 SDGs経営編 ★3.5 (NIKKEI SDGs 経営調査2024)
大和インベスター・リレーションズ 2024年インターネットIR表彰 「優良賞」	日興アイ・アール 2024年度全上場企業ホームページ充実度ランキング 総合・業種別「最優秀企業」
健康経営優良法人2025 （大規模法人部門）	

発行体格付

日本格付研究所（JCR）	格付投資情報センター（R&I）
AA－ （安定的）	A＋ （安定的）

THE INCLUSION OF Sanwa Holdings Corporation IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Sanwa Holdings Corporation BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.
THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

コーポレートサイト

■決算説明会 動画配信

https://www.sanwa-hldgs.co.jp/ir/library/document.html

■個人投資家様向けページ

https://www.sanwa-hldgs.co.jp/ir/individual/

ご清聴ありがとうございました